

# 6 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

## 〔注意事項〕

- 1 答えは、全て解答用紙に記入すること。
- 2 解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の二種類がある。
- 3 マーク式問題の答えはマーク式解答用紙に、記述式問題の答えは記述式解答用紙に記入すること。
- 4 マーク式問題の答えは、問題で示された解答番号の欄にある数字をマークすること。例えば、解答番号1と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のようにマーク式解答用紙の解答番号1の解答欄③にマークすること。

(例)

解答番号	解答欄
1	① ② ● ④

一 次の文章を読んで、あとの問一〜七に答えなさい。(問一〜四はマーク式問題、問五〜七は記述式問題です。)なお、設問の関係で、本文の段落に 1 13 の番号を付しています。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

6 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

kyosai-guild

6 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち3)

受験番号	
氏名	

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(根本 彰 「情報リテラシーのための図書館 日本の教育制度と図書館の改革」による。)

問一 X に当てはまる最も適切な語を、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号1の解答欄にマークしなさい。

- ① つまり ② しかし ③ そうえ ④ たとえば

問二 Y に当てはまる最も適切な語を、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号2の解答欄にマークしなさい。

- ① 論証 ② 証明 ③ 批判 ④ 点検

問三 aヘーゲルはとありますが、この部分に対する述語として適切なものを、次の①～④の中から全て選び、その番号を答えなさい。解答番号3の解答欄にマークしなさい。(この解答欄では複数のマークをしてよい)。

- ① 考え ② 含む ③ 導く ④ 捉えた

問四 この文章の構成に関する説明として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号4の解答欄にマークしなさい。

- ① 1段落では読書感想文が抱える問題を指摘し、2段落ではなぜそのような問題が起こるか、その要因を明示し、3段落ではその要因の解説を行っている。  
② 4、5段落は読書感想文を書くためには批判的思考の習得が必要であることを述べ、このように主張するに至った根拠を6、7、8段落において述べている。  
③ 9、10、11段落は、批判的思考を近代思想における弁証法の考え方という別の角度から捉え直すことにより、批判的思考にある二律背反の問題を明らかにしている。  
④ 12段落では6段落から11段落の内容を受けて、批判的思考における批判とはどのようなものかについて説明し、13段落と合わせて、現在の読書教育の不十分さを述べている。

## 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち4)

受験番号

氏名

(答えは、全て解答题用紙に記入すること。)

問五 A こうしたこととありますが、それはどのようなことであると筆者は述べていますか。七十字以内で書きなさい。答えは記述式解答题用紙に書きなさい。

問六 B 読書感想文は、本を読む際に批判的な態度を常に抱きながら思考実験をすることで初めて批評として成立する。とありますが、これに先立つ[4]段落で筆者は、批判的思考を身につければ、自分を基準にして作品との距離が測れるようになると述べています。これらの筆者の主張を踏まえて、あなたは生徒に読書感想文を書かせる前に、国語科の授業において指導を行うこととしました。生徒が作品を批判的に読み、自分を基準にして作品との距離を測れるようになるために、あなたならどのような指導の工夫を行いますか。「自分を基準にして作品との距離が測れるようになる」とはどういうことを明らかにして書きなさい。答えは記述式解答题用紙に書きなさい。

問七 傍線部㊦㊧について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで、それぞれ書きなさい。答えは記述式解答题用紙に書きなさい。

(11枚のうち5)

受験番号	
氏名	

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

二 次の文章を読んで、あとの問一～六に答えなさい。(問一～三はマーク式問題、問四～六は記述式問題です。)

【和歌Ⅰ】 天の河あさせしら波たどりつつ渡りはてねば明けぞし <sup>a</sup>にける 「古今 秋上 紀友則」

この歌の心は、天の河の深さに、あさせ白波たどりて、河の岸に立てるほどに、明けぬれば、「今はいかがはせむ」と、逢はでかへりぬる <sup>b</sup>なり。さることやはあるべき。ただの人すら、ひととせを、夜昼恋ひくらしして、たまたま、女逢ふべき夜なれば、いかにしても、かまへて <sup>A</sup>渡るらむものを。まして、七夕と申す星宿 <sup>c</sup>には、おはせずや。天の河、深しとて、かへり給ふべきにあらず。いかにいはむや。その河には、 <sup>B</sup>鵜ありて、 <sup>C</sup>紅葉を橋に渡しともいひ、 <sup>D</sup>渡し守ふねはや渡せともいひ、

<sup>E</sup>君渡りなば楫かくしてよとも詠めり。かたがたに、渡らむことは、さまたげあらじ。渡し守の、人を渡すは、知る知らぬはあるべき。七夕の、心ざしありて、渡らむとあらむに、渡し守、 <sup>F</sup>などてかいなび申さむ。また、河も、さまでやは深からむ。かたがたに、心得られ <sup>d</sup>ぬことなり。また、 <sup>A</sup>ひがごとを詠みたらむ歌を、古今に、躬恒・貫之、まさに入れむやは。たとひ、かの人々 <sup>X</sup>、あやまちて入れめ、 <sup>注1</sup>延喜の聖主、のぞかせ給はざらむやは。もし、古今の書きあやまりかと思ひて、 <sup>イ</sup>あまたの本をみれば、みな、渡りはてねばとあり。おろさかしき人の、書きたる本にやあらむ、渡りはつればと書ける本もあり。おぼつかなきに、人に、尋ね申ししは、なほ、渡りはてねばとあるべきなめり。渡りはつればとあるは、あしきなめり。かやうのことは、古き歌の、ひとつの姿なり。恋ひかなしみて、立ちあ待ちつることは、ひととせなり。たまたま、待ちつけて、逢へることは、ただ、ひと夜なり。その程の、まことにすくなければ、まことには、逢ひたれど、中々にて、逢はぬかのやうにおぼゆるなり。されば、程のすくなきに、逢はぬ心ちこそすれと詠むべけれど、 <sup>G</sup>歌のならひにて、さもよみ、また、逢ひたれど、ひとへに、まだ逢はぬさまに詠めるなり。たとへば、月の、山のはに出でて、山のはに入る、と詠むがごとし。いつかは、月、山より出でて、山には入る。されども、うち見るが、さ見ゆるを、さこそおぼゆれとはいはで、ひとへに、山より出づるやうに詠むなり。これのみかは。花を、しら雲に似せ、紅葉を、錦に似せなどするも、ひとへに、それにこそはなすめれ。 <sup>注2</sup>ことたがふもの、人の物いふは、似たる物をも、ひとへになし、聞かぬ事をも、聞きたるやうにこそはいふめれ。それがやうに、歌も、逢ひながら、逢はずとはいふなり、とこそうけ給はりしか。

(「俊頼髓脳」による。)

(注1) 延喜の聖主 Ⅱ 醍醐天皇のこと。古今和歌集の撰集を命じた。

(注2) ことたがふもの Ⅱ 人ではないもの。

受験番号

氏名

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

問一 ㉑に、㉒なり、㉓に、㉔ぬとありますが、それぞれの助動詞の意味の組合せとして最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号5の解答欄にマークしなさい。

- ① a 完了 b 伝聞 c 完了 d 打消  
 ② a 断定 b 断定 c 断定 d 完了  
 ③ a 完了 b 断定 c 断定 d 打消  
 ④ a 断定 b 伝聞 c 完了 d 完了

問二 X に当てはまる最も適切な助詞を、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号6の解答欄にマークしなさい。

- ① が ② や ③こそ ④ さへ

問三 アひがごと、イあまたのとありますが、これらの本文における意味として最も適切なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ選び、その番号を答えなさい。アは解答番号7、イは解答番号8の解答欄にそれぞれマークしなさい。

- アひがごと ① 失礼なこと ② 縁起の悪いこと ③ 古くさいこと ④ 正しくないこと

- イあまたの ① 手元の ② 多くの ③ 専門の ④ 昔の

問四 A 渡るらむものを、F などでかいなび申さむの口語訳をそれぞれ書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

問五 B 鶺鴒、C 紅葉を橋に渡し、D 渡し守ふねはや渡せ、E 君渡りなば楫かくしてよとありますが、これらは次に示す【鶺鴒にまつわる伝説】又は、【七夕にまつわる和歌】を踏まえて例示したものとされています。筆者はどのようなこと例としてこれらを示したと言えますか。【鶺鴒にまつわる伝説】及び【七夕にまつわる和歌】の内容に触れて書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

【鶺鴒にまつわる伝説】

七夕の夜、牽牛と織女が逢う時に、鶺鴒という鳥が翼を並べて天の河に橋を架けるとされた。

【七夕にまつわる和歌】

天の河紅葉を橋に渡せばや七夕つめの秋をしも待つ  
 渡し守ふねはや渡せ一年に二たび来ます君ならなくに  
 久方の天の河原の渡し守君渡りなば楫かくしてよ

問六 G 歌のならひとありますが、本文において筆者は【和歌I】について、この「歌のならひ」と結び付けて解釈を示しています。筆者は【和歌I】について、具体的にどのような解釈を示していますか。本文における「歌のならひ」の内容を明らかにして書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

受験番号

氏名

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

三 次の文章を読んで、あとの問一～六に答えなさい。(問一～四はマーク式問題、問五・六は記述式問題です。)なお、設問の關係で返り点・送り仮名・符号を一部省略しています。

貞観四年、<sup>注1</sup>上謂<sup>ニ</sup>ヒテ侍臣<sup>一</sup>曰ク、「<sup>注2</sup>崇<sup>ニ</sup>飾<sup>シ</sup>宮宇<sup>一</sup>ヲ、遊<sup>ニ</sup>賞<sup>スル</sup>ハ<sup>注3</sup>池台<sup>一</sup>ニ、帝王之所<sup>レ</sup>ニシテ欲スル、ア百姓之所<sup>レ</sup>ナリ不レル欲セ。帝王ノ所<sup>レ</sup>ノ欲スル者ハ放逸ナリ、百姓ノ所<sup>レ</sup>不レル欲セ者ハ勞弊ナリ。イ孔子云ク、有下リ一言ニシテ可<sup>ニ</sup>キ以テ終身行<sup>レ</sup>フ之ヲ者<sup>上</sup>、其<sup>レ</sup>怨<sup>乎</sup>。a」己ノ所<sup>レ</sup>ハ不レル欲セ、勿<sup>レ</sup>カレ施<sup>ニ</sup>スコト於人<sup>一</sup>ニ。b」勞弊之事ハ、誠<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>カラ施<sup>ニ</sup>ス於百姓<sup>一</sup>ニ。朕尊<sup>キ</sup>コト為<sup>ニ</sup>リ帝王<sup>一</sup>ト、富有<sup>ニ</sup>ツ四海<sup>一</sup>ヲ。c」每事由<sup>ニ</sup>ル於己<sup>一</sup>ニ。誠<sup>ニ</sup>能ク自ラ節<sup>ス</sup>。d」A若百姓不欲、必能順其情也。」

<sup>注5</sup>魏徴対<sup>ヘテ</sup>曰ク、「陛下大<sup>ニ</sup>憐<sup>ニ</sup>ミ万姓<sup>一</sup>ヲ、ウ毎<sup>ニ</sup>節<sup>レ</sup>シテ己ヲ以テ順<sup>レ</sup>フ人ニ。臣聞ク、<sup>注6</sup>『以<sup>レ</sup>テ欲<sup>フ</sup>人<sup>ニ</sup>者ハ昌<sup>一</sup>エ、以<sup>レ</sup>テ人ヲ樂<sup>レ</sup>シマシムル己ヲ者ハ亡<sup>フ</sup>ト。』隋煬帝ハ志在<sup>レ</sup>リ無<sup>レ</sup>キニ厭<sup>ク</sup>、惟<sup>ダ</sup>好<sup>ム</sup>奢<sup>侈</sup>ヲ。ま<sup>テ</sup>所司毎<sup>レ</sup>ニ有<sup>ニ</sup>ル供奉營造<sup>一</sup>、小<sup>シ</sup>ク不<sup>レ</sup>レバ称<sup>レ</sup>ハ意<sup>ニ</sup>、則<sup>チ</sup>有<sup>ニ</sup>峻罰嚴刑<sup>一</sup>。上之所<sup>レ</sup>ハ好<sup>ム</sup>、下必<sup>ズ</sup>有<sup>レ</sup>リ甚<sup>ダ</sup>シキ。競<sup>ヒ</sup>為<sup>スコト</sup>無<sup>レ</sup>ク限リ、遂<sup>ニ</sup>至<sup>レ</sup>リ滅亡<sup>一</sup>ニ。此<sup>レ</sup>非<sup>ニ</sup>ズ書籍ノ所<sup>レ</sup>ニ伝<sup>フル</sup>、亦タ陛下ノ目<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>ナリ親<sup>シク</sup>見<sup>ル</sup>。為<sup>ニ</sup>其ノ無道<sup>一</sup>ナルガ、故<sup>ニ</sup>天命<sup>ニ</sup>ジテ陛下<sup>一</sup>ニ代<sup>レ</sup>ラシム之ニ。陛下若シ以テ為<sup>レ</sup>サバ足<sup>レ</sup>リト、今日不<sup>ニ</sup>啻<sup>ニ</sup>足<sup>一</sup>レルノミニアラ矣。若シ以テ為<sup>レ</sup>サバ不<sup>レ</sup>ト足<sup>ラ</sup>、更<sup>ニ</sup>万倍過<sup>レ</sup>グトモ此<sup>ニ</sup>、亦タ不<sup>レ</sup>ラント足<sup>ラ</sup>。」太宗曰ク、「卿所<sup>レ</sup>対<sup>フル</sup>甚<sup>ダ</sup>善シ。B非<sup>レ</sup>ズンバ卿<sup>ニ</sup>朕安<sup>ク</sup>シ<sup>テ</sup>得<sup>レ</sup>ン聞<sup>ニ</sup>ク<sup>ヲ</sup>此<sup>ノ</sup>言<sup>一</sup>ヲ。」

(「貞観政要」による。)

(注1) 上 〓 ここでは唐の太宗皇帝のこと。

(注2) 崇飾 〓 高く立派にする。

(注3) 池台 〓 池や台座。

(注4) 怨 〓 思いやりの心。他人の気持ちを推し量って同情すること。

(注5) 魏徴 〓 太宗皇帝に仕えた臣。

(注6) 『以欲従人者昌、以人樂己者亡。』 〓 「春秋左氏伝」の「以欲従人則可。以人従欲鮮濟。(欲を以て人に従へば則ち可なり。人を以て欲に従へば濟ること鮮し。)」という一節を踏まえたものとされる。

(注7) 所司 〓 役人。

中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち8)

受験番号

氏名

(答えは、全て解答题紙に記入すること。)

問一 ア 百姓の本文中における意味として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号9の解答欄にマークしなさい。

- ① 神 ② 君子 ③ 庶民 ④ 異民族

問二 イ 孔子云々とありますが、これに続く部分において、上(太宗皇帝)が孔子の言葉として引用しているのは、本文中のa～dのうちどこまでですか。次の①～④の中から最も適切なものを選び、その番号を答えなさい。解答番号10の解答欄にマークしなさい。

- ① a ② b ③ c ④ d

問三 ウ 毎節已<sub>レ</sub>以<sub>テ</sub>順<sub>レ</sub>人<sub>ニ</sub>とありますが、この主語として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号11の解答欄にマークしなさい。

- ① 孔子 ② 魏徴 ③ 煬帝 ④ 太宗

問四 A 若百姓不欲、必能順其情也を、「ひやくせいのはつせざるがごときは、かならずよくそのじやうにしたがはん」と訓読する場合、「不」にどのような返り点を施せばよいですか。その返り点として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号12の解答欄にマークしなさい。

- ① レ ② ㄟ ③ 一 ④ 中

問五 B 非<sub>レ</sub>ズンバ 卿<sub>ニ</sub> 朕<sub>ニ</sub> 安<sub>ク</sub>ンシ 得<sub>レ</sub>ン 聞<sub>ニ</sub>クラ 此<sub>ニ</sub> 言<sub>マ</sub>の口語訳を書きなさい。答えは記述式解答题紙に書きなさい。

問六 此<sub>レ</sub> 非<sub>ニ</sub>ズ 書籍ノ 所<sub>レ</sub>ニ 伝<sub>ラ</sub>ル、亦<sub>タ</sub> 陛<sub>下</sub>ノ 目<sub>ニ</sub> 所<sub>ニ</sub>ナリ 親<sub>シ</sub>ク 見<sub>ル</sub>とありますが、魏徴がこのように述べたのはなぜだと考えられますか。あなたの考えを書きなさい。答えは記述式解答题紙に書きなさい。



## 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち9)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

四 平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領 国語 各学年の目標及び内容 「第3学年」 内容 「思考力、判断力、表現力等」 A 話すこと・聞くこと (1) オ には、「進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。」と示されています。生徒が「合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること」ができるようにするために、どのような学習を行わせることが重要だと考えられますか。具体的に書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

kyosai-guild

# 6 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち10)

受験番号	
氏名	

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

【五】平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領 国語 各学年の目標及び内容 「第3学年」 内容 「思考力、判断力、表現力等」 C 読むこと (1) ウ には、「文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。」と示されています。あなたは、この指導事項に基づいた単元を設定しようとしています。次の表中の【目標】は、この指導事項に基づいて設定した「思考力、判断力、表現力等」の目標、【言語活動】は、【目標】を実現するための言語活動、【評価規準】は、この単元において設定した「思考・判断・表現」の観点に関する評価規準です。また、【ポイント】は、批評文を書かせる際の指導のポイントとして設定した事項、【単元の流れ】は、この単元の流れを示したものです。これらについて、あとの「問い」に答えなさい。

【目標】	文章の構成や展開、表現の仕方について評価することができる。
【言語活動】	心に残る文章を読んで批評文を書く。
【評価規準】	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方について評価している。
【ポイント】	<p>○ 文章の構成や展開について評価する際には、文章の構成や展開が分かりやすく適切なものであるか、読み手の共感を得るために有効であるかなどを根拠に基づいて判断し、その意味などを考えるよう指導する。</p> <p>○ 表現の仕方を評価する際には、様々な表現の仕方が、文章の内容や書き手の考えを正確に伝えたり印象付けたりする上でどのような効果を持っているかなどを根拠に基づいて判断し、その意味などを考えるよう指導する。</p>
【単元の流れ】	<p>【一次】 単元の見通しをもち、教科書を用いて、文章の分析や批評の仕方について学ぶ。</p> <p>【二次】 【一次】での学習を生かして、心に残る文章（教材）を読んで批評文を書く。</p> <p>【三次】 お互いを書いた批評文を交流して、読み手からの助言などを踏まえて修正し、人の心に残る文章にみられる工夫をまとめる。</p>

【問い】 あなたは、この単元の【単元の流れ】に示す【二次・三次】において、「心に残る文章を読んで批評文を書き交流する」ということを学習課題として設定して、【ポイント】を踏まえた指導をしようとしています。次の【教材】は、【二次】において提示する教材で、脚本家の山田太一が、若くして亡くなった友人の寺山修司に対する思いを述べた文章です。この文章について生徒が書く批評文として、「おおむね満足できる」状況（B）を満たす批評文を具体的に想定し、あとの条件1・2に従って書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

【教材】

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

6 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち11)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

kyosai-guid

(山田太一「路上のボールペン」による。)

条件1 批評文を書く際は、【教材】の中から根拠を挙げて書くこと。

条件2 批評文を書く際には、【教材】の「文章の構成や展開」、「表現の仕方」の両方の項目を取り上げ、いずれの項目について言及かが分かるように明示して書くこと。

⑥

# 中学校 国語科 マーク式解答用紙

氏 名

氏 名
-----

受 験 番 号

受 験 番 号					
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

【記入上の注意】

- 1 余白には何も記入しないでください。
- 2 HBまたはBの鉛筆で該当する ○ にマークしてください。  
 マーク例 <良い例> ●  
 <悪い例> ◊ ◈ ⊗
- 3 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。
- 4 受験番号については、6桁の数字を記入したうえで、該当する ○ にマークしてください。

一	解 答 番 号	解 答 欄
	1	① ② ③ ④
	2	① ② ③ ④
	3	① ② ③ ④
	4	① ② ③ ④

二	解 答 番 号	解 答 欄
	5	① ② ③ ④
	6	① ② ③ ④
	7	① ② ③ ④
	8	① ② ③ ④

三	解 答 番 号	解 答 欄
	9	① ② ③ ④
	10	① ② ③ ④
	11	① ② ③ ④
	12	① ② ③ ④

kyosai-guide



6

中学校 国語科 記述式解答用紙

(4枚のうち1)

受験番号	
氏名	

問題番号		解答欄			
問七	問六	問五			
㊦	[Blank area for question 6]				
㊧					
㊨					
㊩					
㊪					

問一〜四は、マーク式解答用紙に記入すること。

kyosai-guild

6

中学校 国語科 記述式解答用紙

(4枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号				解答欄	
問一～三は、マーク式解答用紙に記入すること。	問四	問五	問六	F	A

問題番号			解答欄	
問一～四は、マーク式解答用紙に記入すること。	問五	問六		

6

中学校 国語科 記述式解答用紙

(4枚のうち3)

受験番号

氏名

問題番号

解答欄

四

kyosai-guild

6

中学校 国語科 記述式解答用紙

(4枚のうち4)

受験番号

氏名

問題番号

解答欄

五

kyosai-guild



中学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	2		3
問二	4		3
問三	1、4	全部合っているものだけを正答とする。	4
問四	4		6
問五	読み手の読書に関するこれまでの経験や現在の状況等によってテキストから読み取られるものは異なり、その意味で正しい読み方はないということ。(67字)	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
問六	<p>筆者の述べる「自分を基準にして作品との距離が測れるようになる」とは、生徒が作品に表れているものの見方や考え方をそのまま受け入れるのではなく、自分の知識や経験と照らし合わせて、自分なりの理解を基に作品を対象化し、吟味したり検討したりしながら読み、自分のものの見方や考え方に対する作品に表れているものの見方や考え方の位置付けが分かるようになることを表していると考ええる。</p> <p>そのことを踏まえ、国語科の指導においては、生徒が批判的な態度を常に抱きながら本を読み、読書感想文を批評として成立させることができるように、登場人物の行動や物語の展開の意味を考えさせたり、登場人物と自分との考え方の違いを確認させたりする。また、作品に表れているものの見方や考え方と自分の考えを比較させ、共通点や相違点を確認させたり、作品中で述べられている主張と根拠との関係は適切か、根拠は確かなものであるのかといった、内容の信頼性や妥当性を吟味しながら読ませる。このような指導を繰り返し行うことで、作品を対象化して、吟味したり検討したりしながら作品を批判的に読み、自分の中での作品の位置付けが分かるようにしていくことが考えられる。</p>	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	20
問七	㉗ し	語として採点する。	各2×5
	㉘ 一致		
	㉙ かくとく		
	㉚ かいぎ		
	㉛ 革命		

56

中学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問一 3		3	
	問二 3		3	
	問三	ア 4		各 3 × 2
		イ 2		
	問四	A 渡るであろうになあ	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 6 × 2
		F どうして断り申し上げるだろうか、いや断り申し上げないだろう		
問五	鵲や紅葉の橋を渡ったり、渡し守のいる舟で渡ったりするなど、牽牛が天の河を渡る方法があるということ。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	8	
問六	たとえ事実とは異なった内容になったとしても、思ったり感じたりしたとおりに詠むのが「歌のならび」である。【和歌Ⅰ】もそうした「歌のならび」に沿った和歌の一首で、実際には天の河を渡って織女に逢うことができたが、あまりにも短い逢瀬で逢わなかったかのように感じられたため、天の河を渡り切れずに帰ったと詠まれた歌であるという解釈を示している。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	1 4	
三	問一 3		3	
	問二 2		3	
	問三 4		4	
	問四 2		4	
	問五	そなたでなければ、私はどうしてこのような言葉を聞くことができたであろうか、いやできなかったであろう。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	8
	問六	書物に述べられていたことを、太宗が目当たりにした煬帝の滅亡と結び付けることにより、太宗の語った君主の姿が、正当なものであることを太宗に実感をもって理解してもらおうとしたため。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	1 4
四	生徒が合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができるようにするために、立場や考えの違いを認めつつ、納得できる結論を目指して、生徒それぞれが建設的な意見を述べながら話し合う学習を行わせることが重要であると考えられる。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	1 2	

中学校国語科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
五	<p>この文章には、構成や展開、表現の仕方の工夫が随所に施されており、寺山修司の人柄やその死を悼む山田太一の気持ちが表現されたものになっている。</p> <p>「文章の構成や展開」については、冒頭部で寺山の死による喪失感の大きさと淋しさを、展開部で大学時代や終りの四カ月の思い出を、終末部で山田にとっての寺山の魅力と別れに際しての想いを述べるという構成となっている。展開部で山田が寺山と過ごした濃密な時間について描写することによって、冒頭部や終末部に述べられた山田の喪失感の大きさや淋しさを際立たせている。これによって、読者に、山田の、寺山の死を悼む思いの強さを想像させる効果があると言える。</p> <p>「表現の仕方」については、寺山の言動を具体的に描写しているという工夫が見られる。例えば、寺山と久しぶりに再会した場面では、体調の悪そうな寺山の様子を「同じ電車をおりた人々が、とっくにいなくなってから」「実にゆっくりゆっくり、手すりにつかまって」「ようやく改札口を出て」と描写している。また、体調が悪いにもかかわらず、楽しそうな寺山の様子を「本棚を見せろ、といい」「どの棚もどの棚も丁寧にたどって」「『なつかしいねえ』と声を高め」「ミシェル・フーコーを読んだか？ ジャック・ラカンはどうだ」と描写している。これらの具体的な言動の描写を通して、寺山が山田との再会を喜び、大学時代と同様に本をめぐるやり取りを楽しむ様子や、そのような寺山の様子に哀惜とでもいうような感情を覚えながら共に過ごす山田の様子を想像させ、二人の間にあった時間の濃密さを印象付け、読者に、二人の間にある強い関係性や、山田の寺山を失った喪失感の大きさを想像させる効果があると言える。</p> <p>このような文章の構成や展開、表現の仕方の工夫によって、この文章は、寺山修司の人柄を描き出し、その死によってもたらされた山田太一の喪失感の大きさや淋しさを色濃く表現したものであると言える。</p>	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	50